

ペルー産 生食用ブドウは新品種が従来品種を大きく上回る

[FreshPlaza](#) 2024年5月17日

ライセンス品種の栽培面積が伝統的なブドウ品種の栽培面積を大きく上回る

ペルー輸出業者協会(ADEX)は2022-23年度出荷シーズンの終わり(2023年7月)に、テレビペルーのニュースサイト [TVPerú Noticias](#) で、ペルーが再び生食用ブドウの世界有数の輸出国になったと発表した。国連食糧農業機関(FAO)のデータ(2022年)によると、出荷量は52万6,857トンに達した。

ペルーのブドウ部門の過去20年間の成長は目覚ましく、2001年設立の非営利団体プロビッド(Provid: ペルー生食用ブドウ生産者協会)の成長と密接に関連しており、同団体は現在、ペルーの生食用ブドウ輸出量の70%以上を占めている。

ペルー農業防疫局(SENASA)のデータによると、2023-24年度シーズンの生食用ブドウの栽培面積は2万2,343ヘクタールで、イカ県(南部)が49%、ピウラ県(北部)が37%を占めている。

プロビッドのマヌエル・イザガ会長は「生食用ブドウの輸出シーズンは順調に進んだ。政治的に安定していたおかげで道路封鎖もなく毎週順調に輸出できたほか、北米や南米の他の地域での悪天候により市場への供給量が少なかった。実際、ペルーの輸出シーズンが始まった第38週頃(9月後半)の市場はほぼ空っぽであった」と話す。(以下「」は同氏の発言)

30年前にペルーで植えられていた主な品種は、クリムゾン、トンプソン、フレーム、スグラオーネであり、その後、アジア市場が開かれた後にレッドグローブも植えられた。「しかし、2015年以降、レッドグローブは供給過剰により市場価値を失い始め、多くの生産者が伐根するようになった。レッドグローブの価格は2020年に再び上昇し始めたが、中国市場の経済的困難により、直近年には再び価格が下落した。」

2023-24年度シーズンに最も栽培された品種は、スイートグローブ(22%)、レッドグローブ(16%)、オータムクリスプ(14%)、シーゼーン20(商標名アリソン 7%)、スイートセレブレーション(5%)で、オータムクリスプは前年比で目立って増加し(+47%)、レッドグローブは減少傾向にある(-13%)。

昨シーズンの栽培面積は、種無し白ブドウが54%を占め、種無し赤ブドウが25%、レッドグローブが16%、種無し黒ブドウが5%であった。白ブドウ品種では増加傾向が見られ、赤ブドウ品種は減少した。

栽培面積の75%はライセンス制のブドウ品種で、25%が従来からの品種であったが、わずか4年前までは従来品種がライセンス制の品種を上回っていた。「クリムゾンやトンプソンなどの従来品種は、輸出に適した品質の箱数が十分に揃わないため足場を失った。」

ライセンス制の品種に関しては、インターナショナル・フルーツ・ジェネティクス(IFG)社とSNFLグループ(これら2社は、現在はブルーム・フレッシュ社として統合)とサンワールド社の3社が主要な育種企業であり、それぞれがライセンス供与総面積の50%、25%及び22%を占めている。

輸出に関しては、2022-23年度シーズンに7,140万箱(8.2kg/箱)が海外市場に出荷され、記録を更新した。出荷の約90%は第40週(10月上旬)から第3週(1月半ば)の間に行われ、出荷のピークは第47週と第48週(11月下旬~12月上旬)であった。「しかし、昨シーズンはエルニーニョの影響で輸出が12%減少した。ペルー北部では、湿度が高いため作物が影響を受けた。ピウラ県とランバイエケ県からの出荷は、それぞれ30%及び40%減少した。」

「次の出荷シーズンに何が起こるかはまだわからない。しかし、ラニーニャ現象の影響で気温が下がるので、供給量が増える可能性があると思う。」

2023-24年度シーズンには、ブドウ出荷量の59%が北米向け、21%がヨーロッパ向け、13%がアジア向けであった。米国(46%)が最大の輸出先で、オランダ(12%)、メキシコ(9%)、中国(8%)がそれに続いた。

同会長によると、ペルーの生食用ブドウ部門の発展は、栽培とそのリスクに関する生産者の知識の程度に依存する。「我々は『短期主義』に流されてはいけない。果実の品質とコストの管理に重点を置く必要がある。そして、コスト削減について話す時、私は労働費について言及していない。なぜなら、労働者は公正な賃金に値するからだ。実際、ペルーの生食用ブドウ部門の労働者に支払われる給与は、政府が定めた最低賃金を超えている。これは、この国の労働市場が需要と供給の原則によって支配されているためである。」

ペルーの生食用ブドウ企業上位10社は、その真剣な取り組みと専門的な仕事ぶりが認められている。「ペルーの農業部門全般にとってのもう一つの大きな利点は、国の通貨の安定性である。ペルー中央銀行はいかなる政治権力にも依存しないため、インフレ率を低く抑え、為替レートの変動を防ぐことができる。」